

私は、総合型選抜のスポーツ科学受験という方式で神戸大学に合格しました。私の経験がこれから受験を迎える人、そして進路をまだ決められていない人の参考になればと思い、合格体験記を書かせていただきます。

私が進路について考え始めたのは高校1年生の秋ぐらいでした。それまで自分が何をやりたいのかも全く理解しないまま、とりあえず大学受験はするだろうというくらいしか考えていませんでした。しかし、兄に「自分のやりたいことを見つけて早く志望校を決めろ」と何度も言われ、少しずつ自分の好きなことや、興味のあることについてたくさん調べ、スポーツ科学という分野を勉強したいと思い、志望校を神戸大学にしました。当時は兄のこの言葉をうっとうしいなとしか思っていませんでしたが、今考えると、適当に決めた志望校に向けて勉強するモチベーションと自分のやりたいことをしっかり考えて決めた志望校に向けて勉強するモチベーションは全然違うなと思います。また、今はあらゆる入試方法があるので、早い時期から準備を進めるためにも進路について真剣に考えておくことが重要だと思います。私は3年間、部活が中心の生活だったので、SSHなどの活動はしていませんでしたが、進路説明の時、「総合型入試で合格した生徒の約半分はSSHをとっていました。」という言葉聞いて、「逆に、半分もの人がSSHなしで合格しているのだな」とポジティブに考えることができ、不安を感じることはありませんでした。物事をポジティブに捉えることは、受験において大切なことだと思います。

私の場合、とても特殊な入試方法で、スポーツ科学に関する筆記試験、スポーツに科学的観点を取り入れた実演、口頭試問・面接、共通テストで選考されました。実演と面接では、附天での6年間が功を奏し、全く緊張することなく話すことができました。また、嫌々やっていた中学の自由研究もスポーツ系の内容だったので、面接の時、話の種になり、どれだけ自分がその分野に興味があるのかアピールできたように思います。自分で言うのもなんですが、正直、面接と実演は満点に近い自信があり、あとは共通テストさえ普通にできれば受かるなと思っていましたが、見事にこけました(笑)浪人するつもりはなく、共通テストの後、もう落ちたなと思って区切りをつけられたので、私立の勉強に集中することができました。共通テストでこけたから、合格した今だから、言えることですが、総合型入試は、学力だけで決める入試ではないからこそ、面接や実技、小論文などをしっかり頑張って、大学の先生に「この子に来てほしい！」と思ってもらえる受験生になるべきです。

この体験記を読んでくださっている皆さんの中には、進路について悩んでいる方や、志望校に向けて勉強を頑張っている方がいらっしゃると思います。みなさんには「自分が本当にやりたいことは何なのか」、「どの学部で自分が本当にやりたいことが学べるのか」しっかり考えてほしいです。私は正直、「大学名よりも学部」の方が重要だと考えます。就職について考えた時、もちろん大学名はひとつの武器だと思います。しかし、「どこの大学を出たのか」より「どんな学部でどのようなことを学び、研究してきたのか」を重視して、大学の4年間自分の興味のある勉強をできる方が絶対に楽しいと思います。

最後になりましたが、附高は自分のやりたいことに打ち込める最高の環境です。合格するためには努力が必要不可欠ですが、勉強だけでなく、いろいろなことに挑戦し、興味を広げてください。そして、やりたいと思ったことに一生懸命取り組んでください。受験は辛いことも大変なこともたくさんありますが、しんどくなった時は休憩することも大切だと思います。最後まで諦めずに頑張ってください！みなさんが志望校に合格されることを祈っています。

皆さんこんにちは。今回この記事を自分が書くななんて夢にも思っていなかったので本当に困っています。また、他の人達と少し異なった受験体験にはなりますが、少しでも後輩たちの皆さんに参考になっていただければ嬉しいです。

さて、私は崇城大学工学部宇宙航空システム工学科航空操縦学専攻という、パイロット養成の学部に進学しました。名の通り、航空機の操縦免許を大学在学中に取得し、エアラインパイロットになる為の学科です。私はパイロット特別選抜という方式で受験し合格しました。操縦免許を取得できる大学はいくつかあるのですが、新型コロナウイルスの影響でオープンキャンパスがオンラインであったり、そもそもなかったりという中、崇城大学だけが来校型オープンキャンパスを実施して下さい、熊本まで両親と見に行きました。結果的にそれが決め手となり受験することになりました。オープンキャンパスってそんなに必要？など思っている時期もありましたが、やはり行くことでモチベーションも上がりますし、実際テストの時も少しでも知った場所だと緊張も和らぐと思うので皆さんも是非興味を持った大学があるなら足を運んでみて下さい。

私は両親の影響もあって幼少期から海外旅行に連れて行ってもらう機会がありました。また、父の仕事に伴う転勤で地方に住んでいたのが電車網はそんなに発達していなく遠くに行く時は飛行機という生活でした。その頃から漠然とパイロットってカッコいいな～とっていました。

高校の進路相談の際も航空系に進みたい！と言えば今コロナでCAは大変だよ！と航空系=女子=CAと思われていました（笑）しかしCAではなくて、操縦するほうです！と伝えると、え?!と一瞬びっくりした顔をし、パイロット?みたいな反応をされたことを鮮明に覚えています。そりゃそうですね、女子がパイロットってあまり聞いたことないですからね。

そして、私の進路を決める上で最難関は両親を説得させることでした。附高と言えば、国公立大・有名私大という流れで周りの友達もそんな感じでやはりネームバリューのある大学を目指していました。しかし、私はパイロットになりたいので崇城大学を選びましたが、パイロット養成プログラムの学費は目が飛び出る程の桁違いな額です。両親からは中途半端な気持ちで目指されては困ると強く言われましたが、私は本気度を見せる為に英語資格の習得や、自分を追い込む条件を自ら出して頑張りました。ただ、先程述べた通り、オープンキャンパスに両親と行って一緒に説明を聞いてもらうことで、夢が具現化し両親からも積極的に応援してもらえるようになりました。そこからは入試に向け、先生方や家族に多大なるサポートを受け、一丸となって取り組みました。

私の高校生活はというと部活に打ち込み、先生方や友達にも恵まれ、本当に堪能し謳歌させていただきました。一年生の時は留学にも行き、一回り成長して帰ってきました。また、学校行事にも全て参加し、SSHやピースプロジェクトにも積極的に携わりました。高校生活を満喫し、学校行事に積極的に参加したからこそ充実した高校生活の様子を面接でも話せたと思います。受験だから、、勉強しなきゃだめだ、、という考えで行事に参加しない人もいますが、もし迷われているのなら絶対参加した方が良いと思います。先輩方の体験記でも書いていましたが、高校生活は二度と戻りません。

高校生活に名残もありますが、入学してから少し経ち毎日、課題や予習・復習に追われていますがすごく充実しています。附高時代の3年間も今のようにもう少し勉強していればと思いますが、不思議と自分の興味のある分野なら勉強も進みます。そして、同じ目標を持つ23人の仲間と切磋琢磨しながら夢に向かってしっかり勉強に励み、体調管理も気を付けたいと思います。

最後に、後輩の皆さんは進路に迷ったり、悩んだりしている時期だと思いますが、高校生活を精一杯謳歌し、そして自分に正直になって大学選びをして下さい。長文、乱文読んで下さり、ありがとうございました。

私は今年、大阪大学工学部応用自然科学科に学校推薦型選抜で合格し、新たな生活を始めています。この合格体験記を読んでくれている人の中には、進路の一つとして推薦入試を考えている人もいます。拙い文章ですが、参考にしていただければ幸いです。私が推薦入試を意識し始めたのは高校2年生の夏辺りでした。SSHや部活など、一般入試では一切評価してくれない自分の勉強以外の活動を評価してくれると思ったからです。この頃に自分の将来の夢をじっくり考えた上で、志望校を決め推薦入試に関する情報を少しずつ集めていきました。推薦入試を受験するためにどういった項目を満たしておく必要があるのか(例えば、英検準一級を取得している者や評定平均が4.0以上の者)をこの時点で知ることから早いうちからそれに合わせた対策ができたと思います。余談ですが私の場合、行きたい教授の研究と同じ分野にするために、SSHの研究内容を全て変えました。当時はかなりしんどかったのですが、結果的に研究に一層のめり込むことができ良かったと思っています。高校3年生になってからも、SSHのプルーフⅢや陸上部の引退試合など今考えれば忙しい毎日を過ごしていました。また、一般入試に向けて勉強を進めると同時に推薦入試に向けて4月から本格的に準備を始めていきました。多くの人は夏休み頃から一気に資料作りを始めると聞きましたが、私は早いうちから始めておいて良かったと思っています。塾から帰ってきて気が抜けがちな夜に少しずつ志望理由書や研究報告書などを書いていったので、効率よく準備を進められたからです。おかげで比較的早めに学校の先生に志望理由書の添削をお願いし、余裕を持って資料を完成させることができました。秋からは、推薦入試の対策を行いつつ、冠模試に向けて勉強を進めていきました。しかし、周りの友達が受験勉強を着々と進めている中、自分は推薦の準備をしているという現状に焦りを感じ、メンタル面でかなりダメージを受け、勉強に全く集中できない日もありました。受験において「焦り」は一番の敵だと思います。思考が狭まり、悲観的なことしか考えられなくなります。私の場合は、塾の先生の助言で常に合格している自分を想像し、楽観的なことだけ口に出せと言われ、これを実践することでなんとか立ち直る事ができました。長い受験生活において、どんなに成績が悪くても、どんなに時間が無くても常に前向きでいることが大切だと強く感じました。

推薦入試は楽だと思われがちですが、実際に受験してみてその大変さを身をもって知りました。大学に行って何をしたいのかを具体的に考えたり、面接で自分の思いをしっかりと伝えるために練習を何十回も繰り返したりと正直、楽ではなかったです。ですが、推薦入試の準備は大学生として過ごす中で大切なことばかりだったと思います。ぜひ、皆さんには推薦入試は大変であるということを理解した上で頑張ってもらいたいと思います。

最後になりますが、附高は3年間の高校生活を「高校生」らしく過ごせる学校だと思います。勉強や部活動、附高三大行事など、それぞれが自分のしたいことを突き詰めていくことができる環境が整っているからです。大学は高校までとは想像以上に大きく環境が変わります。講義がほとんどオンラインになってしまい、思うように自分のしたいことができないことも多いです。だからこそ、附高という素晴らしい環境を活かして今のうちに「高校生」にしかできないことを楽しんでほしいと思います。

皆さんの受験がより良いものとなりますよう応援しています。

合格体験記に目を通すタイミングは人によって様々だと思います。3年生の夏休み、勉強に行き詰まった時にモチベーションを高めるために読む人、受験のノウハウや勉強法が知りたくて2年生の最後くらいに読む人。そういった人達は是非このページを飛ばしてください。僕はこれを胸を踊らせながらこの附高に入学した1年生に向けて書きます。自分だ、と思った方は今から書くことを心の片隅にでも置いておいてください。そうすれば少し明るい附高生活が送れることを保証します。

まず、伝えたいのは附高で1番やってよかったこと、附高祭の運営です。附高祭に限らずこの学校の行事運営が他校と決定的に違う点は予算案まで自分達で作るという自主性にあります。いきなり自由を与えられるということは一見楽に思えるかも知れませんが、むしろ大変な事の方が多くあります。先生方は自分の生徒として見守るだけでなく、学校として生徒や規律を守る側の立場に立って1個人として生徒に向き合ってください。その他にも高校生という立場で業者の方とやりとりをするなどの外の世界を経験できることは今改めて振り返っても貴重な経験で、経験した人にしか見えない景色を是非見ていただきたいです。

もう一つ、自分にはあまり上手くできなかったけど、皆さんに是非やっていただきたいことがあります。それは学校の外の世界に出てみるということです。あまり知られていないことかもしれませんが、学校内でなくても高校生が参加できる企画はたくさん存在します。僕自身2年生の冬に附高を卒業された先輩の紹介で、ある学外のイベントに関わらせていただきました。そこでは色々な高校の学生と関わることができただけでなく、学校の中では出会うことのない数の大人の方々と出会うことができ、こんなことを高校2年生というタイミングで経験できた僕は幸せ者だと今でも感じます。しかし、3年になると受験への焦りもあって、積極的に活動に参加することができずに歯がゆい期間を過ごしました。興味を持った方は完全燃焼できるように1年生の内には是非積極的に情報を集めてみてください。

最後に、自分がそうだったようにやりたいことがまだ明確でないという人に向けて伝えたいことがあります。そんな人ほど将来の自分にできるだけ多くの選択肢を与えてあげられるように、附高での3年間を目一杯楽しんで、好きなことや自分にとってやりがいのあることをたくさん見つけてください。それが将来の目標を考える場面や志望大学を選ぶ過程で必ず役に立ち、最終的に自分が社会に出るときには、それが武器になっていることでしょう。

こんにちは。今回は、私の合格体験記を手にとっていただきありがとうございます。中身に入る前に、私の高校時代の様子を少しだけ。私は、3年間学級代表を務め、行事や部活動(文化部)にも積極的に参加をしていた、いわゆる附高に染まりきっている人でした。私がどのような人なのか、あなたとはどんな共通点や相違点があるのかというイメージを持つことで、この先の読み方に変化が出てくると思います。イメージできましたか?それでは、本題へ。今回は、①進路決定について②自己実現のための秘話の2点について話していきたいと思います。

1つ目、進路決定について。私が進路を最終決定したのは高校3年の夏でした。それまでは幾つかの候補に絞っていたものの、進む大学はもちろん学部や学科、受験方法などが進路について考える度が変わっていました。さらに、私が下した最終決定はこれまでの候補にはなかったものでした。では、逆に進路を考え始めたのはいつか。それは、中学3年の時でした。私は、より正確なゴール(私の場合は、将来の夢)を持つことが、自分の進路決定の助けになるとわかっていたので、できるだけ早い段階から、「自分は、どんな分野に興味があるだろうか。将来、どんな仕事をしたいだろうか。どんな人になりたいか。」などを考えていました。ここまですべて読んで何か気づいたことはありませんか?私の進路決定の方法は、私オリジナルのものなのです。周りの人の進路を考え始めた時期やきっかけ、考え方、決定の方法や時期。もし、あなたがこれらの情報を欲しているのなら、進路決定に焦りを感じているのかもしれませんが、あ、そうかも。と思ったのなら、周りの人たちに聞くのではなく、今すぐ、考え始めてください。なぜなら、最終決定を下せるのは周りの人ではなく、あなた自身だけだからです。でも、どう考えていったらいいの?と思いませんでしたか?考え方は人それぞれであるため伝えられませんが、思考を深めるヒントはこれから話していきます。

2つ目の自己実現のための方法、ですが、受験とどう関係があるの?と思いませんでしたか?しかし、私は自分の進路を実現させるためには、「自分理解」が最も重要だと思います。この自分理解とは、教科の好き嫌いや興味のある分野といったことだけでなく、自分の精神的な特徴も含みます。これは、自分の進路を決める上で役立つだけでなく、進路実現のための道を築く上でも重要になってくるのです。前段落の下線部を思い出してください。私は、自分がどういう性格で、どういう人なのか、ということをよく理解しているから、自分の進路決定を下すことができ、結果として自分の望むものを手に入れることができたのです。では、自分の理解を深めるためにはどうすればいいのか。それは、この学校にある様々な活動に自分の好き嫌いを問わずに全力で挑戦してみることです。それでこそ、本当の自分の性格や理想像などが見えてきます。ここで注意すべき点は、学校の活動とは、決して、部活動や行事に参加することだけではありません。「明日の授業での発表に積極的に取り組んでみよう。」「普段はしないけど、最近授業についていけないから予習(復習)をしてみよう。」このようなものでも十分挑戦と言えませんか?大事なものは、全力で取り組むことです。中途半端では、ただの時間の無駄になってしまいます。

ここまで、長々とした話を聞いてくださり、ありがとうございました。あなたの将来について考える際の一助になるといいなと思っています。最後に。今日あなたがこれを読んで感じたものは、明日もう一度これを読んでも感じることはできません。もし、何か感じたことがあるなら、今すぐその思い通り行動してみてください。同じ、瞬間は二度とやってきません。これからの残りの附高生活も同じです。一日一日、一瞬一瞬を大切に過ごして欲しいと思います。

こんにちは、葛本凌太です。音祭の推進委員長をやったり、卒業式で答辞を読んだりしたので名前を知って頂いている人もいないのではないかと思います。私は高3まで行事にのめり込んでいましたし、SSHもプルーフ3まで続け、部活もクイ研とかかるた部両方頑張っていました。そんな私がどうして東大に現役合格できたのか、その要因を書いていきます。

まず、模試の徹底復習です。私のした復習は単なる解き直しではありません。知識の確認に加え、解説を熟読し、解答に至るにはどのような思考のプロセスを踏めばいいかを考え、それらを言語化してノートにまとめていました。特に世界史と日本史に関しては学校の授業と独学だけなので、間違えた問題や完全答案でない答案があるとその周辺事項もすべて復習しました。この作業を行うことで、単に知識が定着するだけでなく、どのような解答が求められているのか、その解答にたどり着くためにはどう考えればいいのか自分が整理できるので、どんな問題が来てもしっかり対応することが出来ます。過去問演習なども同様です。

次に、自己分析に時間をかけ、自分なりの戦略を組み立てたことです。自己分析の一番のタイミングは模試の自己採点時と返却時、過去問演習時です。間違えた所や記述で引かれた所をピックアップし、今自分に何が足りていないのか、それを埋めるためにどんな演習をどのようにすればいいかを考えました。ただ先生がやれと言ったからやロコミがいいからなどの理由で演習をする人がいますが、非効率的です。なぜその参考書をするのか、その演習でどういう力を得られるのかという目標を理解した方が確実に身につきます。大切なのは主体的に勉強を進めることです。我流がよいといっているではありません。積極的に情報を集め、吸収し、自分なりの合格への近道を生み出すのです。そのために塾や学校の先生、合格者などをしっかり活用してください。また、戦略として、得意科目は二つ以上作ることをお勧めします。私の場合、数学に加え、世界史と現代文も得意にしました。これにより、一つ失敗してしまっても他の科目があると思えば、メンタル的に落ち着けます。

そして、共に高め合う友達を作ることです。私の場合、高校二年次に校外活動にともに取り組んだ同校のグループがそうでした。一学期はほぼ毎日英語や数学の問題を出し合い、解説も自分で作成していました。また勉強会なども定期的に行い、直前までお互いわからないところを教え合ったり添削し合ったりしていました。教えることで自分が一番身につきますし、お互いの苦手分野などもわかるのでそこを埋め合う形でアドバイスしたり勉強法を共有したりして、結果的に全員が力をつけていきました。(皆、無事第一志望に合格しています。)切磋琢磨する仲間がいることで、モチベーションにもつながりますし、楽しみながら勉強でき、メンタルを保てます。彼らがいなければ私は合格できていたかわかりません。

ここまで書いてきましたが、本番は魔物が棲んでいるというのは事実です。実際私も模試の判定はずっと良く、共通テストもうまくいき自信を持っていましたが、二次の一日目、得意の数学が大難化し思うように解けず、ホテルで大泣きしました。そのメンタルで二日目に挑み、英語で頭がパニックになって体中震えだしました。実力の7割も出せていないと思います。日頃から本番を意識し、実力の7割しか出せなくても受かる戦略を立ててください。

最後に、三年間合格に向けてひたすらに勉強するのも素晴らしいことですが、折角附高に来たからには最大限附高生活を満喫してください。ここでは大学に入ってから、そして社会に出てから大事なことをたくさん学べます。私のように附高生活を謳歌しても、自分の努力次第で合格は出来ます。後悔しない選択をしてください。皆さんの合格を祈っております。

僕の他に誰が合格体験記を書いているかは知らないですが、一般的な勉強のアドバイス等に関しては僕より余程適任な方が既に書いてくれていると思うので、僕は「部活や有志、課外活動等で勉強に時間があまり割けない人、もしくは割けなかった人」に的を絞ってお話します。これは勿論僕がそのような生徒の一人だったからなのですが、附高には恐らくそういった人は多いように思われます。三年生では殆どの人が受験に向けて勉強しますけれども、一・二年生の間はほかの人が勉強している時間を自分のやりたい事に費やしている訳ですから、当然遅れは出てきます。ではこの遅れをどのように最小限に留めるか。あくまで一受験者の経験則として、その方法とは「得意科目を一つ用意しておく」ということがあると思います。ここでの得意科目は なんとなく得意で好きな科目 という意味ではなく、他の教科と比べて明確に点数が取れる科目 という意味です。(国公立文系志望の方は数学がおすすめです。文系数学は最難関とされる大学でもそこまで難しい問題は出ないのに加え、苦手とする受験生が多いので数学が取れるだけで大きなアドバンテージを作ることができます。) 教科によらず勉強は偏差値40から60に上げるよりも60から80に上げるほうが圧倒的に難しいので、ある程度詰め切れていて、伸びしろが少ない得意科目があると受験期には心置きなく苦手科目に時間をさける上に、逆に苦手科目ばかりを勉強していてしんどくなった時に得意科目を勉強するとそれがいいカンフル剤となってくれます。

つづいて受験期の事に関してですが、受験を戦い抜くうえで案外大事なものは息抜きです。三年間こつこつと勉強していた人でさえずっと勉強するのは苦痛なので、今回焦点としているような勉強をあまりしてこなかった人が一年間勉強し続けられる訳がありません。そこで重要となってくるのがコストの良い息抜きを見つけることです。これは人によって全く異なるので皆さんで探していただけたいと思います。(因みに僕の場合は昼休みなどにするバレーでした。在校生の方の中には昼休みや放課後に度々出没する三年のバレー集団を冷やかな目で見ている方もいると思いますが、あれくらいしなければ受験なんてやってられません。)

ここまでは人によって合う合わないがあると思うので読み飛ばしてくれてもかまいませんが、ここからは僕が皆さんに伝えられる最も重要なことなのでしっかりと読んでください。皆さん、受験関係の諸手続きはしっかりとやってください。何を当たり前のことをと思うでしょうし、自分には関係ないとも思うでしょう。事実僕もそう思っていました。しかし去年実際に僕は後期試験の出願を忘れてしまっており、そのことに前期の二次試験一週間前に気付きました。他に私立も受験していなかった僕は、一気に浪人の危機に立たされたわけです。結局運よく前期日程で合格できたわけですが、そこでも僕は入学手続きの締め切りを勘違いしておりあわや入学辞退者扱いになるどころでした。僕の周りで同じようなことをした人はいないので普通にしていれば皆さんは大丈夫だとは思いますが、こういうこともあるんだということを知っておくことで万が一にもそういったしょうもないのに取返しのつかないミス危険性をなくしていただければと思います。

このような失敗談の後に言うことではないと思いますが、考えることを止めずに為すべきことを淡々とこなし続ければ必ずと道は開けてくるはずで、皆さんの合格を祈っています。頑張ってください。

後輩の皆さんこんにちは。私の経験をもとに、受験勉強について色々伝えられたらと思っています。参考になれば幸いです。

最初に私について少し自己紹介をさせていただきます。私は高校から附高に進学し、高2の3月まで吹奏楽部に所属していました。正直、私は高校生活を目一杯楽しむために附高に入学したので、高2の間まではあまり勉強に身が入っていませんでした。目指したい大学、学部がはっきりと決まったのは高3になってからです。志望動機も、法律の世界に興味があるからという単純な理由でした。高1、2の間は文系理系関係なく幅広く学ぶという、附高の独特のカリキュラムのおかげで自分が1番興味のあることを見つけることができましたと思っています。高1、2の皆さんは自分の選択肢を広げるためにも、学校の勉強を真剣にとまではいいませんがちょっと頑張ってみてください。また、附高は、勉強だけでなくいろいろなことに挑戦できる環境だと思います。そのため、部活動といった勉強以外の活動も一生懸命頑張ってください。というのも、私自身後悔がないくらい部活を頑張れたおかげで、時々楽しかった頃を思い出しながら、つらい受験生活も乗り越えることができたかなと思っていますからです。

私が受験勉強を本格的に開始したのは、部活引退後の3年の春休みでした。高1、2年の間も予備校には行っていましたが、モチベーションも適当に授業を受けていたなーと今では思います。そのため、高3になってもなかなか成績は上がらず、模試ではいつもE判定。それでも合格に結び付いた要因をいくつか考えてみました。

一つ目は、自分が受験で使う科目の特性を知ることだと思います。例えば、英語だとコツコツ積み重ねが重要ですし、数学だと反復練習がものを言うと思います。私は高1、2までそのことをあまり理解しておらず、「それなりに勉強しているはずなのになんで成績が上がらんのやろ〜」と悩んでいましたが、高3の夏休みになってやっとそのことに気づき、自分でもびっくりするくらい成績があがりました。二つ目は、受験勉強において背伸びし過ぎないことだと思います。私は、苦手な数学の成績がノリに乗ってきた高3の秋頃に、ハイレベルな参考書に調子に乗って手を出し、ズタボロにされたことがありました。やはり自分のレベル感にあった参考書、勉強法を見つけて行うのが、効率的に着実に成績を伸ばすことができ、合格への近道だと身に染みて感じました。もし自分のレベル感にあっているものが分からない場合は、学校や塾の先生、自分の志望校に通う先輩に聞くのもありだと思います。三つ目は、メリハリをつけることだと思います。ずっと勉強漬けの毎日では、ほとんどの人がメンタル的にしんどくなると思います。私も全く勉強に集中できない日には、いったん勉強のことは忘れて遊びに行ったり、ゴロゴロしたり、友達とおしゃべりをしたりしていました。また、受験勉強においてうまくいかなくて悩んでいること、むかつくことも、友達とおしゃべりする中でよく解決したりもしていました。もちろんそんな日が続いてしまえば志望校合格へは遠ざかってしまいますが、適度な息抜きはしてもいいかなと思っています。

ここまで私の経験をつらつらと書いてきましたが、結局受験において一番大事だなと思ったことは、志望校をあきらめないことだと思います。高校生活も楽しみつつ、皆さんがそれぞれの目標を達成できることを願っています。頑張ってください。最後まで読んでいただきありがとうございました。



みなさんこんにちは。僕はありがたいことに自分の目指していた大学に入学することができました。今から受験勉強を通じて、僕が重要だと思ったことを挙げていきます。みなさんの手助けになれば幸いです。

まずはみなさん、元気ですか？ここでいう「元気」とは、身体的にも精神的にも、どちらの意味も含蓄しています。僕が受験に励む際に一番重要だと思うのはこのことです。あまりに受験勉強を頑張っていると、自分自身の健康が二の次になることがあると思います。「模試まであと1週間や！今日から徹夜！詰め込め！」みたいな感じです。しかし、一番大事なのは受験戦争に勝っていい学校に行くことではなく、自分自身の健康です。勉強に熱心になり過ぎるあまり適度な運動をせず不健康になったり、家や塾の自習室に閉じこもり勉強漬けになるあまり鬱気味になったりということがないように、どうか自分の身体を大事にして勉強に励んでください。そして、健康への第一歩として早寝早起きがあると思います。僕は共通テスト1週間前でも10時に起きるのがしばしばでした。試験本番には早起きをしないといけないので、その時間帯に起きれるように体を慣らしておく必要があると思います。僕みたいに9時になっても寒くて毛布にくるまっている、みたいなことがないように頑張ってください。

また、みなさんは大学に入学してやりたいことがありますか？受験は想像しているよりも長丁場なので自分のモチベーションを維持することが難しいです。その時に自分のやりたいことがあれば、何がなんでも受かってやるぞ！とモチベーションを維持することができるはずですが、少なくとも僕はそうでした。気持ちの持ちようで勉強の質は変わるので、勉強にどうしてもやる気が出ない人は将来自分の行きたい大学でどのようなことをしたいのかを想像することをおすすめします。

そして、模試の成績に一喜一憂しないでください。模試を受ける意義は、自分の結果を知り、それを活かすことです。A判定をとってとても喜んだり、E判定をとって落ち込むのもいいですが、それを受け止めることが大事だと思います。あくまで模試は本番までの通過点なので、その結果を間に受ける必要はないと思います。実際いい判定をとればとても気持ちがいいものですし、悪い判定をとれば落ち込むものです。それでも模試のスコアシートはゴミ同然です。A判定をとっても本番で失敗すれば過去の栄光に過ぎないし、逆も然りです。あくまで自分の現状を把握するために模試の結果を利用して、次に活かせるようにしましょう。

最後に、自信を持って勉学に励み、自信を持って本番を迎えてください。阿呆の僕が大学入試で上手く出来たのは、このメンタリティに起因すると思います。今年の共通テストのように予想外の難易度の問題が出題された時にこそ落ち着く必要があります。「自分にできなければ他の人もできない！」という強い自信を持って試験を受けると、きっとみなさんの今までの努力が実るはずですが。

試験本番は想定外のおきます。賢かった人が落ちたり、逆にアホだった人が受かることもしばしばあります。決して最後まで慢心せずに、みなさんの夢を叶えるために、大学入試は死ぬ気で頑張ってください。みなさんが成功するよう、心の底から応援しています。頑張ってください！

これから一層受験勉強に励む後輩の皆さんに伝えたいことがいくつかあるので、この場をお借りしてお伝えしたいと思います。

まずみなさん、受験勉強と学校の授業を完全に切り離して考えてはいませんか？たしかに、附高で行われる授業は、他の進学校や予備校のように受験に特化した内容ではありません。また、3年間を通して受験では使わない科目もたくさん学習するでしょう。だからそのような科目、授業は受験には役立たない、手を抜いてもよいのだ、そう思っている人が多いのではないのでしょうか？しかし、僕は決してそうは思いません。その理由の1つは、各科目の密接なつながりです。例えば、英語長文には世界史や倫理など他の科目の内容が頻繁に登場します。また、現代文では、倫理で学習するような西洋哲学の知識を前提として論がすすむことがしばしばあります。このような基礎知識の有無で問題の解きやすさが一変する、合否が決まることもあるのです。難関大学になるにつれて、大学は受験生の一般教養、分野を超えた幅広い知識を問う問題を出してきます。それに対応するためにも、常に知的好奇心をもって日頃の授業に挑む必要があると思います。実際、難関大学に合格した人たちは、おもしろいから、好きだから、とって受験に使わない科目の授業も直前まで出席していた印象があります。

最後に、個人的な話ではありますが、自分自身の受験について書きたいと思います。僕は私大専願で受験し、一般受験で合格しました。私大専願、特に早慶志望の人はこの学校ではかなり少ないでしょう。僕のまわりにもほとんどいなかったのも、受験の面ではわりと孤独だった印象です。なので、僕が入学した早稲田大学の魅力を皆さんにお伝えしようと思います。まず、都心の大学だからコロナの影響を強く受けているのではないかと心配されている方もいるかもしれません。しかし、この合格体験記を書いている5月上旬現在、僕の所属している文学部ではほとんどが対面授業です。キャンパスにも活気があり、僕の所属するサークルも全て対面の活動ができています。早稲田大学は感染症対策において高い評価を得ており、教室の換気設備も整っているため、安心して学校生活を送ることができます。また、僕が早稲田に通っていて強く感じる魅力は、キャンパスの立地です。文系学部が入っている早稲田キャンパス、戸山キャンパスは東京都新宿区に位置し、電車で20分圏内には美術館や博物館、映画館やコンサートホールなど多くの文化施設があります。空きコマの時間、放課後に気軽にそのようなところに訪れることができるのは早稲田ならではの強みだと思います。今年の入学式で祝辞を述べられた映画監督の是枝裕和さんは学生時代、授業もろくに出席せず映画館に通い詰っていたそうです。早稲田大学には、学問のみならず、自分の好き、を極められる環境が整っています。ぜひ1度、訪れてみてください！

私は高1のころから、デザインを学ぶことができる学部に行きたいと思っていました。この条件に合う国公立大学の中で調べて出てきたのが都立大のインダストリアルアート学科でした。他にもデザインを学ぶことができる国公立大学はあったのでどれを受けるか悩みましたが、親から「せっかく今まで頑張ってきたのだから、それが受験で評価されるようなところを受けてほしい」という意見をもらい、自分でもいろいろと考えた結果、都立大を受けることを決めました。

この学科の試験科目は共テ：英語、国語、数学(1A2B)、理科②(1つ)、二次：数学(1A2B3)、デッサンと、他と比べて少ないです。ですので、ある程度余裕を持って、高3を過ごせたと思います。1年間、共テ英語・国語対策の授業を受けたのですが、私は全然頑張らなかったので平均点ほどしか取れませんでした。受験直前になっても完璧になれないことは普通のことだと思います。物理は他の科目と比べて暗記事項が圧倒的に少ないのでとてもおすすめです。他の科目の記憶量の膨大さが恐ろしく感じます。

試験科目に「デッサン」があるのですが、私は絵を描くのが好きではないし、上手でもありません。なので、試験日までにある程度画力を高めないといけないのですが、私はそれを面倒に感じたのでほとんど何もしてませんでした。お題になりそうなものをスケッチブックに10枚ほど描き写す程度で終わりました。私以外の合格者は画塾に通うか、学校の美術の先生に見てもらおうかしたのだと思います。

私は、浪人したくなかったので出来るだけ多くの大学を受けました。合計13出願しました(都立大の前期と後期、私大の一般7、共テ利用4)。かなりの受験料だったと思うのですが親が許してくれました。試験に慣れるためにも多く受けましたが、結局都立大では緊張しました。私大受験中、3日連続で受けたときは考える力がとても減っていました。後悔したくないのなら1回でも多く受けるべきですが、連日受験には覚悟を持って挑みましょう(2日連続の受験は全然苦じゃないです)。

私は、国公立大学の中で行きたい大学が都立大しかありませんでした。なので、都立大の前期試験に落ちたとしても、後期試験でのレベルの下げ先がありませんでした。後期試験というと、東大などのトップ層に落ちた人の戦い、というイメージがありますが、私が受ける学科には「デッサン」という科目があります。「東大に落ちた人がわざわざデッサンがある学科を選択することは無いだろう」と思った私はこの学科の後期試験は一般的なものよりかは難しくはない、可能性は少くらいあるだろうと思い、後期試験も都立大に出願しました。(後期試験はデッサンの配点が低いことも、私がやる気になった理由の1つです。)

前期試験で落ちた私は、やっと受験生っぽい生活を始めました。意識して過去問や模試の問題を解いたり、苦手な単元の克服に努めたりしました。デッサンはもう上手にならないだろうと思い、諦めました。これで後期試験に受かりました。

下宿については、合格前予約をしていたので楽にできました。下宿先をあらかじめ決めておくことは、勉強のモチベーションアップにもつながると思います。

私の合格体験記を読んでいただき、ありがとうございました。

皆さんは、今から1年後の今日、自分が何をしているか想像することは出来ますか。そう聞くと、「全く想像は出来ないけど楽しく生きていたい」という人、「絶対にこうなってやる」と決意してそこに向かって努力している最中の人、きっとそれぞれに違う1年後の自分を想像するのではないかと思います。次に、こんな質問はどうでしょうか。今から1年前の今日、あなたは何をしていましたか。カメラロールや予定表をさかのぼって見てみてください。それが1年前のあなたです。そこから一年経った今、あなたのこの一年間をどのくらい想像出来ていたでしょうか。きっと大半の人が、良くも悪くも「これは想像していなかった」と思う節があるのではないかと思います。これは決して1年後の理想を打ち砕きたい訳ではなく、例えどんなに現実的な将来を描いても、何から何まで想像通りにいくなってことはないと思うからです。

実際私も今、1年前どころか3ヶ月前でも全く想像していなかった進路についています。というのも、私は元々工学部志望でまちづくりを中心に学びたいと考えていましたが、前期日程は不合格。結果として、共通テストが終わってから見つけて後期日程で出願していたこの学科に進学しました。しかもこの学科を知ったきっかけは、友達がたまたま出願していたから、と偶然としか言いようがない理由です。しかしそのおかげで工学部以外でもまちづくりを学べる学科があることを知ることができ、今の進路に繋がりました。これは自分がこういう結果になったから言えることなのかもしれませんが、例え想像していた通りの理想を叶えられなくても、その結果がベストの選択肢である可能性だってあると思います。なぜなら、時間が経つにつれて自分の興味や考えが変わってくるかもしれないし、ベストかどうかは実際にやってみてからしか分からないと思います。だから例え想像通りにいかななくても絶望するのではなく、自分が考えていなかった新しい可能性が開けたと思って、逆にその新しい可能性を潰してしまわないように行動するのが一番良いのではないかと思います。これから受験を迎える人にも、何もかもうまくいわずに絶望しそうな時が途中で必ず来ると思います。そんな時、投げ出してしまうのではなく、自分に残された可能性を潰さないように最後まで努力してほしいと思います。そうすれば必ず自分に何らかの形で返ってくる日がきます。

また、これは合格体験記としてはふさわしくない内容なのかもしれませんが、私は受験生だからといって高校生活を犠牲にするつもりは全くありませんでした。高3の行事で言えば、附高祭はキャストとして活動日は欠かさず活動していたし、音祭もきちんと練習に参加し、野球部や体育委員としても夏までしっかり活動していました。私は高校生活をしっかり楽しんだ自信があるし、「今この附高でしか出来ない経験」を積極的にやってきました。受験が終わった今でもそれらをやっていて良かったと思うし、後悔は微塵もありません。それは、学校での活動も受験勉強も自分なりに両方やり切ったからだと思います。部活の引退前は特に、眠たくて仕方なくて自習室に行っても全く勉強できず、自分にイライラしながら帰ったこともよくありました。そこで私が意識し始めたのが「ルーティーン化」です。私も習慣的に学習することは得意ではなかったのですが、例えば私の場合はお風呂の時間の単語帳を自分のルーティーンにしていました。なぜならお風呂の時間は毎日絶対にやってきて逃れようがないからです。そうやって少しずつ自分なりのルーティーンを見つけて増やしていけば、確実に勉強時間を確保できるのでおすすめです。

最後に、附高は良い意味で特殊な場所です。今しかできない体験をしつつ、勉強も両立できるのが附高の良さです。頑張ってください！

僕は現役での合格が叶わず、浪人を経験しました。今回はこの経験をもとに主に浪人の時のことについて話したいと思います。みなさんにはあまり参考にならないかもしれませんが、そんな世界もあるんだなと思いながら読んでもらえると嬉しいです。

まず、僕が浪人をしていた一年間で大事にしていたことは、自分は浪人を「させてもらえている」という意識を持つことです。浪人には時間もお金もかかります。簡単にできることでは無いことを忘れないようにして、浪人をさせてもらえていることに感謝していました。そのようにしていたため、この恩を返せるように勉強しようという気持ちを持ち続けられました。この気持ちを持てたことが一年間勉強へのモチベーションを保てた要因だと思います。

また、せっかく浪人をさせてもらえるのだったら各教科を完璧にする気持ちで臨んでいました。具体的に言うと、勉強時には「理解している」を「できる」にするということに重きを置いていました。理解していてもそれが試験の時にできなければ、当たり前ですが、理解もしていない人と全く同じ評価になります。現役の時の僕は、理解していれば試験でできるに決まっているというおめでたい思考をしていました。しかし、それができるのは天才だけです。僕は残念ながら凡人だったので、理解していることだけでは不十分なことに気づいてからは、何度も何度も繰り返し同じ問題を解いて、できるようにしていきました。特に浪人の時に学ぶ内容は、高校の時に既に学んだことがある内容が多く、現役生の時に味わった新しいことを学ぶ面白みはあまりありません。繰り返し同じ問題を解く作業もかなり地味です。それでも、できるようになる面白みを感じながら勉強できていたのは良かったです。できるようになることは理解することより圧倒的に大変ですが、入試で僕と同じような失敗をしないように、みなさんには「理解した」だけで満足せず、「できる」まで反復して欲しいと思います。

話はコロッと変わりますが、ここで医学科を考えている人へ、「共通テストの対策をしっかりすべし」と伝えたいです。医学科入試は共通テストで決まると言っても過言ではありません。共通テストで大きく負けてしまうと、たとえ二次力があってもライバルたちも二次試験で高得点を取ってくるため、二次試験で差を取り返すことが難しくなります。それに加えて、予定通りの出願ができた人は一年間対策をしたことになるのに対して、出願校を変更した人は出願後の約一ヶ月間の対策しかできません。予定通りの出願をするためにも、共通テストに捧げてほしいと思います。また、医学科だからといって、必ずしも難問が解けなければならぬ訳ではありません。医学科はひとまとめにされがちですが、大学によって問題の形式・難易度・共通テストと二次試験の得点換算比率などはバラバラです。難問が出題されないのにそれを解いていても仕方ありません。自分が行きたい大学のそれらはどうなっているのかをできるだけ早めに調べてみてください。

最後に、みなさんには高校生活を楽しみながら、その上で現役での志望校合格を目指して欲しいです。高校生活を楽しめるのは今だけであり、後になって戻りたくなくても戻れません。部活や行事といった貴重な経験ができる機会を無駄にするのはもったいないです。僕は部活を言い訳にして、勉強をサボってしまっことを少し後悔しています。このような後悔をしないためにも目の前のことに全力を尽くして欲しいと思います。みなさんなら両立できると信じています。応援しています。

三年間の附高での高校生活と一年間の浪人生活を終えた上で、現役時の失敗も含めて今皆さんに伝えたいことを書いていこうと思います。

まず勉強面ですが、絶対に復習は怠らないでください。正直、これをきちんと出来なかったことが私が現役時第一志望の学校を逃した最大の原因だと思っています。予習で解法を考えてから授業を受ける、高三になるとこの流れを定着させるよう学校でも塾でも強く言われると思います。しかしこれは復習をきちんとやることを前提とした話であり、復習を捨ててまで予習に挑めということではありません。特に数学では、学習した成果が三ヶ月後からゆっくり現れてくるということをよく言います。このために復習を一生懸命してもすぐに効果が現れずやめたくなる気持ちは非常に分かります。ですが実際に私自身今年夏までに現役時の勉強も含めて復習をやり切ると決め実行してみたところ、最初の方は効果が得られず苦しい期間が続きましたが、8月頃にある夏の志望校別模試が終わった頃から自分で解ける問題が増えていることを実感し始め、年三度の全統記述模試では苦手だった科目の偏差値が右肩上がりに向上していました。復習は“徹底的に”やるのが大切です。やる気が出なければ好きな科目の新しい問題を解いても構いません。ただ、(特に苦手科目は)着実に解ける問題の種類を増やしていくこと、これだけはぜひやって欲しいと思います。

そして二つ目、精神面に関してです。受験生としての生活の中で誰でもどこかの時期で一度は精神的に参ってしまうことはあります。その時に大切なことは、結果を変えようと急ぐ“前に”そのメンタルを立て直すことです。30分でもいいので一旦勉強から目を逸らして、外を眺めたり好きな音楽を聴いたりしてください。その30分に罪悪感を感じる必要は一切ありません。そして自分で抱えきれなくなった場合は迷わず誰かを頼ってください。自暴自棄になることだけは本当に避けてください。落ち着いて周りを見れば、相談できる人が誰もいないということはないはずです。

そして三つ目、浪人を経験してこそ改めて思ったことですが、高校生活は本当に悔いのないよう充実させてください。普通の受験生よりも一年も多くの時間モチベーションを保っていたのは高校生活にそれなりに満足していたからだと思います。実は私は附高では三年間野球部のマネージャーをしていました。平日は塾に間に合うギリギリまで部活をして23時頃まで勉強、土日は毎週部活へ行ってから授業の有無に関係なく塾で自習。高校三年間息をつく暇もなかったくらいでした。それでも学校で友達や先生と話してふざける時間や行事の準備をする時間がいつでも一番の楽しみで、これから先あれより楽しいことがあるのかと思うくらいでした。(皆さんも附高で過ごしていればそのような楽しみは沢山あると思います!) その楽しみがある分ハードスケジュールの中で切り替えが出来ていたのは間違いありません。ただし、だからと言って高校生活最後の一年を充実させることを考えすぎるあまりに、今年納得のいく結果が得られなかったら浪人しよう、という考えを簡単に持ってしまうのはNGです。浪人生活は、皆さんが今想像しているものよりも確実に辛いものです。人としても成績においても大きく成長はしましたが、後輩の皆さんにはできるだけ経験して欲しくありません。自分に合った方法で進んでさえいれば、附高で様々なことを経験してきた皆さんなら全力で高校生活を充実させて現役で受験を突破することは十分出来ます。

最後になりましたが、皆さんの受験勉強を支えてくれる家族や先生方への感謝の気持ちを常に忘れずに一年間ベストを尽くしてください。どれほど苦しい時期が来ても、その気持ちが必ず大きな原動力となります。附高の一先輩として陰ながら応援しています。

私は一浪して京都大学法学部に合格しました。1回不合格を経験している分皆さんに伝えられることも多いのではないかと思いますので、ぜひ目を止めてみてください。

はじめに、私なりになぜ現役の時に落ちてしまったのか、その要因を三つ考えてみました。反面教師にしてこれからの受験勉強に役立てていただけると嬉しいです。

一つ目は、「環境を整える努力をしなかった」ということです。現役時代は大手の塾に行かずに小規模の塾に通いながら自習する形をとっており、当時はその方法が自分に一番あっていると思っていました。しかし、浪人して同じ目標をもつ友達と支え合い競い合う環境を得て、現役時代の方法が一番よかったのか疑問を持つようになりました。決して大手の塾に行くことをすすめているわけではありませんが、やはり受験勉強をする上で環境は本当に大切だと痛感したので、今一度今の自分の勉強環境が自分に一番良いものなのか考えて、もしそうでないのならばぜひ行動してほしいです。

二つ目は、「苦手教科である数学を伸ばしきれなかった」ということです。遅くとも高校3年の夏には過去問演習に本格的に取り組むべきであり、そのためにはそれまでに苦手なところはある程度つぶしておかなければなりません。しかし、私は苦手な数学を底上げできず、さらに数学にかかりっきりになってしまったため、他の得意な科目にあまり時間を割けず思うように点が伸びなかったと思います。

三つ目は「気持ちで負けていた」ということです。失敗しても最悪浪人したらいいと心のどこかで思っていました。しかし、みんなが合格して喜んでいる時にあともう一年勉強しなければならぬのは精神的にしんどいですし、浪人しても必ず受かるとは限りません。絶対に一年で決める気持ちで臨んでほしいです。

次に、浪人してよかったことを二つ述べたいと思います。

一つ目は「大切な友達ができた」ということです。同じように挫折を経験した友達には何でも相談することができましたし、毎日共に勉強する友達は心の支えでした。同じ大学を目指している人だけのクラスに在籍していたので、同じ大学に進学した友達が多くいて、大学に入って知らない人が多くても不安にならずに大学生活を楽しめています。また、他大学にも友達が多くできて人脈が広がりました。

二つ目は「必死で目標に向かって努力したという経験を得ることができた」ということです。両親や親戚をはじめ周りの大人は、挫折を経験しそして諦めずに努力したことは一生の糧になると励ましてくれました。私は、はじめは、そんなものはきれいごとだと思いましたが、浪人して第一希望に受からなければこの一年は無駄だとも思っていました。しかし、一年間自分の全力を尽くして本番を迎えるころには合格してもしなくても大切な一年だったと思えるようになりました。そのおかげで本番では、浪人したのだから絶対に受からなければならぬと気負うことはなく、そして結果として合格できたことはとても嬉しいです。

浪人が決まった時は絶望しましたが、頑張れば頑張るほど目に見えて結果が出て、勉強をするのが本当に楽しかったです。自分でしっかりと計画を立ててそれを毎日やり遂げることは達成感がありました。浪人といっても適度に息抜きはしますし、もちろんしんどい時期はありますが、一年間ずっと地獄というわけではありません。浪人はしないに越したことはありませんが、本当に行きたい大学があるのなら、浪人を恐れて妥協するのではなく、その目標に向けて精一杯努力し続けて下さい。努力は必ず報われるということはありませんが、その過程で得るものは計り知れません。受験はつらいかもしれませんが、あつという間に終わりがきますし、終わった後は本当に楽しい春が来ます。